

市事研 会報 おおさか 翔

令和4年1月25日 発行 大阪市立小中学校事務研究会 会長 小山 純大 編集 同事務局

ホームページアドレス：<http://www.y1.x312v.smilestart.ne.jp/>

今号のピックアップ

- 1ページ ・新年のごあいさつ
- 2ページ ・パソコン研修会について ・府事研大会報告 ・編集後記



新年のごあいさつ

大阪市立小中学校事務研究会
会長 小山 純大

新年を迎えてから、早くも一か月が過ぎようとしています。会員の皆様におかれましては、新しい年を健やかに迎えられたことと心からお慶び申し上げます。本年も、本研究会へのご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。また、1月14日に開催いたしました学校徴収金会計事務における実務研修会には、多くの会員の皆様にご参加いただきましたことを、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

さて、政府は、昨年12月24日に令和4年度予算案を閣議決定しました。文部科学省の文教関係予算においては、「令和の日本型学校教育の推進」等に重点が置かれ、「教科担任制の推進等による個別最適な学びと協働的な学びの実現や学校における働き方改革の推進に向けた教師等の指導体制の充実」や「GIGAスクール構想の着実な推進と学びの充実」などに向けたものとなっています。また、教職員定数改善における学校事務職員に関連する事項として、共同学校事務体制強化に向けた加配は、「学校運営体制、チーム学校の実現に向けた指導体制の整備等」の項目で計上されています。大阪市においては、昨年12月21日に令和4年度の予算編成過程について、教育委員会事務局をはじめ、各所属の予算要求状況が公表されました。学校事務職員は、学校における唯一の財務担当職員であることから、令和4年度の公金会計や学校徴収金会計などの予算執行計画の検討等に向けては、国会や2月から始まる大阪市会の動向にも注視しておくことが大切です。

今年、大阪市の学校事務職員に関連することでは、まず、昨年からの作業が進められている学校園におけるネットワークの再構築における「大阪市教育情報ネットワーク」への切替があります。私たちが普段の業務で使用している校園ネットワークパソコンの設定変更が行われ、ネットワーク環境があれば、出張先等でも学校と同じ環境でパソコン作業ができるようになります。更に、コミュニケーションツールであるTeamsを介して、それぞれの学校へ訪問することなく会議や打ち合わせを行うことができるようになるなど、私たちの働き方が大きく変化する1年になるかもしれません。

次に、令和2年度にモデル設置された共同学校事務室について、令和4年度にモデル実施から「段階的实施」へと切り替わり、8室の追加設置等が行われることになっています。令和5年度に全市実施が予定されているため、平成24年11月に、北区、西区、天王寺区、阿倍野区、東住吉区でスタートし、平成26年度に全行政区へと展開された学校間連携が実施される最後の1年になります。

今年は、私たち学校事務職員にとってどういった1年になるのでしょうか。学校事務職員を取り巻く環境は、常に大きく変化しています。一方で、学校現場で働く教職員の一員として、子どもたちの教育活動をより充実させることや、一人ひとりに合わせた教育環境の整備など、学校事務職員が大阪市の学校教育の発展に寄与するという目的や役割は、いつの時代も変わりません。会員の皆様とともに考える「これから」と、先輩方が積み重ねてきた「これまで」を柔軟に織り交ぜながら、本研究会は、日々の業務につながる情報発信をはじめ、少しでも会員の皆様の職能形成や資質向上につながる取組ができるよう、本年も役員をはじめとする研究会スタッフと研究会活動に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。最後に、会員の皆様の一層のご健勝とご多幸を心よりお祈りし新年のあいさつとさせていただきます。

パソコン研修会について



パソコン研修会については、昨年度に引き続き資料掲載による自習型の研修会とさせていただきます。今年度の資料は、関数を中心としたExcel操作資料と操作データの2種類を市事研ホームページへ3月に掲載予定です。詳しくは、次号の会報にてお知らせいたします。

第30回 大阪府公立学校事務研究大会

明日の教育を担う学校事務を創造しよう ～令和から始める働き方～

第30回大阪府公立学校事務研究大会が2年ぶりにオンラインにより開催され、会長あいさつ、大阪府公立学校事務研究会 研究部による研究発表、パネルディスカッション、記念講演が行われました。

研究発表では、「共同実施の機能について」と題し、2019年に府内の学校事務職員を対象に実施したアンケートを基に、内容とその意図、結果の概要等を中心とした中間報告が行われました。引き続き、職務にまつわる課題として「標準化」「業務負担」「人材育成」「役割・権限」の4観点を設定し、分析を進めていくとのことでした。

パネルディスカッションでは、共同学校事務室・共同実施の今後の役割について、取組を進めている自治体から招いた4名のパネラーより、報告が行われました。討議の柱として、「何を大切にしているか」「職務の標準化」「研修」「役割分担」「研究会とのすみ分け」が設定され、各自治体の取組を基に討議が進められました。

記念講演では、愛知教育大学 教育学部 教育支援専門職養成課程 教育ガバナンス講座 教授 風岡 治 様より、2010年代の教育改革の動向や、共同学校事務室の取組事例を基に、学校事務職員に求められていること、学校経営参画のためにどうすれば良いのかななどの内容で講演が行われました。今後の研究会活動のあり方についての部分では、縦の関係だけではなく横・斜めの連携ができるという特徴を活かし、人材育成や学校づくりを支援する場として、まだまだ研究会が果たす役割は多くあると述べられ、研究会への期待を込めたメッセージで締めくくられました。

編集後記

年末年始は実家で家族とのんびり過ごしました。みなさんはどのように過ごしましたか？まだまだ厳しい寒さが続きますが、繁忙期に向け体調管理には特に気を付けたいと思います。(M)

